

## これまでの県民会議・地域会議での議論 (里山整備等の今後の方向性に関するもの)

### ① 今後整備が必要な里山について

- ・ 整備の進まない森林の面積がどの程度あり、整備に見込まれる経費がいくら必要なのかが明示されておらず、そうした全体像をわかり易く説明する必要がある。(県民会議)
- ・ 里山を含めた長野県の森林の全体像が見えにくい状況であることから、森林GISなどの技術も活用し、県民に分かるような形で(整備箇所等を)可視化をしていくべき。(県民会議)
- ・ 間伐を進めるに当たって、どの場所を行うのか、労働力の問題も含めて実施可能な量かという情報を把握できるかどうか重要。整備が必要な箇所や、これまで実施した箇所をデータに落としこむとともに、着実に実施できる量を精査することが必要。(県民会議)

➔ **実施すべき箇所を特定しつつ取組を推進すべきではないか**

### ② 里山整備への地域の関わりについて

- ・ この地域は里山を整備し、里山の資源を循環させて地域みんなで盛り上げて取り組む、というような前提があれば、支援する価値はあると思う。全ての地域をまんべんなく支援してもしようがないという気がしている。(地域会議)
- ・ 地域の中で地域の森林をどうしていけばいいのか考えなければと感じた。不在所有者や不明所有者等の課題がある中で、今後は地域全体で管理する必要があると思う。(地域会議)
- ・ 自分の地区の森林でも不明所有者等の問題があり、自分の山がわからなくても良いという風潮も出てきている。そういった地域の山をどう守っていくか、地域の意識を統一していかないと非常に難しい時期に来ていると思う。(地域会議)

➔ **市町村や地域住民等が主体となった取組を推進すべきではないか**

### ③ 担い手について

- ・ 持続的な里山管理を進めるためには、必要な環境整備として、担い手の問題が出てくる。伐採の技術を持った多様な担い手・主体が育成されるべきということに加え、コーディネートできる人材など、人が育たなければ搬出などの取組が進まないのではないか。(県民会議)
- ・ 森林から木材を出して使うためにはコーディネートできる人材の確保が重要。最初から最後まで収支を計算できる人がいないと計画倒れになってしまうことが多い。計画性を持って継続できるように、見通しを持つことができる人材を中心に進めることが大事だ。(県民会議)

➔ **地域による管理などを支援する体制づくりや人材育成が必要ではないか**

### ④ 里山整備等の見える化について

- ・ 多くの方の目に触れる場所に、普及啓発の取組と合わせて木育ルームを造るなど、皆さんに成果や取組を知っていただくことが必要。(県民会議)
- ・ 県民の皆さんに取組を理解いただくということ、県民の皆さんに負担いただいて進めた里山整備が役に立って成果として感じられることが重要。(県民会議)
- ・ 単発的な取組ではなく、複数年に渡ってその取組が定着し、その取組が他地域の波及効果として生まれてくるようにすべき。(県民会議)

➔ **県民に身近に感じられ、成果の見える取組を推進すべきではないか**



## 地域会議での主な意見

### ◎ 里山整備

#### (これまでの成果の受け止め)

・(森林GISの実績図面を見て)大きく見れば国、県の税事業以外の事業がいっぱいあって、県としてはそれでは行き届かないところを森林税事業で手当てしてくというふうはこの地図を見ると感じる。

・(森林GISの実績図面を見て)思った以上に整備された箇所が確実に増えていると思いつつも、整備された箇所であっても年数が経つと、また手を入れなければいけないという繰り返しなので、森林の整備計画はいろんな意味で大変である中、それでもこうして整備計画は少しずつ成果が出ているなど思う。

#### (整備の必要性)

・報道で予算が余っているという話もある中で、現実には手を入れなければいけない山はいっぱいあるということを言いたい。税事業の方ではそこに国庫の間伐事業の予算も入ってくるので、国庫事業の厳しい基準にひっぱられてしまう。税事業をスムーズに行うにはいろいろなハードルがあり難しいところもあるので、そこをもう少し使いやすい形に考えて貰えばいい。

・来年度で第2期目の森林税の期間が終わるという話があったが、まだまだ間伐が必要な山林はなかなか見えにくいですけれども潜んでいるという状況。

・周りの人の山を見ても手入れをしたいと思う山がいっぱいあり、森林整備の話所有者に持ちかけても、材価が安いので林家へお金を返せないことから「おまえが儲けるだけだろう」といわれてしまい結局手を付けられない。

#### (仕組の改善策)

・間伐が計画どおり実施できない中、森林税を国補のかさ上げとして活用するだけでなく、単独で補助制度化し、国補でできない部分を補填する財源として使用できるような制度に変えていってもいいのではないか。

・普通の山とは違うが、大芝高原みたいな場所をPRできる場と割り切って、里山整備はこのように整備をしていますというPRに使い、そこから実際の山での活動の理解に繋げるということもありかなと思った。

・価値ある山を作っていく、森林整備をしていくというところに森林税を使えるようにしていけばいいと思っている。一人親方の方が木を切っていたら、うちの木も切ってくれないかと言われ、頼まれて実施したときに、それは補助金の申請に乗せることができなかったということが頻繁にあるようなことも聞かれるので、そういった形のところでも、何か支援ができるといいと思う。

・現在の森林税事業の搬出支援は地域の皆さんが搬出するような場合に対応するものと理解しているが、里山で森林経営計画に入れることができない場所についても、森林税を使って搬出間伐ができるような仕組みを作ってほしい。そうすれば材を出せる区域が広がる。

・事業によっては国庫補助の方が使い勝手が良いとの話があったが、使い勝手が悪いところを森林税の趣旨に沿って使い勝手が良いように変える努力も必要だと思う。

### ◎ 森林税の成果

・森林税ができたことで、住民の皆さんが森林に興味を持つというふうになってきたという成果は、現場とすればとても感じている。

### ◎ 境界の明確化

・森林整備を進めていく上で、やはり境界を明確にしていくことが大変足かせになってしまふということが多くある。境界の明確化や集約化にも支援いただいているが、どうしても面的に広げていくためには、境界明確化は欠かせないものと思う。

・境界確認には非常に大きなエネルギーをかけて丁寧にきちんとしてきた訳で、成果ではあるが、このままでは将来有効に使えるものとしては残らない。杭が分からなくなる、杭を打った人がいなくなるともう分からない。境界確認の時は所有者をしっかりと確認し、それを図に固定化して、台帳と照合すればすぐ分かるという状況にしておくことは、この事業を継続して展開していく上でも必要。

### ◎ 人材の育成

・これからの森林作業は機械作業に変わりつつあるなどもPRし、多くの人達に知っていただき、もっともっと森林整備に取り組む団体や、リーダー（人材）を養成し確保することが必要ではないかと思う。

・自伐林家に対するサポーターの役割を果たせれば良いと考えていたが、そもそも若い人がいないこともあり、飯伊地域では住民の年齢構成的に林業後継者の育成は難しいと感じている。

・今、伊那谷では一人親方が増えてきたと伺っているが、そういう方達は例えば林業の講習会があっても、自分の仕事があって受けられないということが多いようなので、一人でやっていたり、NPO等こぢんまり小団体でやっている方達でも、そういった育成ができ、それぞれが学び合えるような場が多くあればいいと思う。

・森林整備をしろといってもやはり一番の問題は人手が足りないということだと思う。林業はお金にならないではなくて、価値のある山を作りながら経済になる、産業になるぞと日本は今まで来たと思うので、また昔のように山の価値や林業を見直す機会にこの森林税が使っていけたらいいと思った。

・自伐林家の育成は非常に難しいと感じている。自分は林業研究グループに所属しているが、メンバー自体が減ってきている。若い人に呼び掛けて伐採技術を習得しても薪の調達までしかいかない。その後離れてしまう。林業は危険との意識があり、その先まではなかなかできない。

・資源は十分にある。自分は66歳だが、昔自分で植えた木を今切っている。林業だけで生活するのは大変だが、他の仕事と組み合わせ補助金と併せて何とか暮らしていけると思う。急には変わらないので小さな取り組みからやっていくしかないが、何とか森林税を利用して人材を育てることができないか。

・これからの後継者をどうするのか等の課題を解決していかなければ、いくら間伐をやれと言われても進まない。

### ◎ 森林税の理解を深める取組、PR

・森林税は第2期が来年度に終了する。今回の不祥事がからんだ中で、県民が納税するにあたっては、緑を守ることは大切な事だと納得できるよう、目に見える形でアピールしていただきたい。

・やはり有効にみんなに効果が見えるように使うことも大事だと思う。森林税は継続する方向かと思うが、そういった検討の中で県民の要望に応えられるものとしてもらえればと思う。

・森林税はどういうところに使われているのかという質問をかなりの方からいただいている。今回の大北森林組合のこともちらほら聞かれ、私たちの税金がうまく使われていないという言葉が頂戴しているところ。こういった考えを持つ県民の皆さんも確かにいるわけで、もうちょっと県の方でもPRが必要ではないのかなと思う。

・推進支援金をもらって事業を行っている自治体の者として、やはり自治体としてのPRが不足しているのかなと感じている。宮田村も里山整備をいくつか実施していて、現場の山に入る方々は「その山、綺麗になったね」と言われるが、村民全体にはつながっていないのかなということがあるので、もうちょっとPRできるといいかなと思っている。

・今後のあり方の一番の課題は、森林税を県民により深く理解していただき資金を確保することが大事だと考える。

・木曾地区において、森林税は過去から有意義に使わせていただいて、効果もあり、ありがたい制度と感じているが、まだまだPR不足ではないかという意見もある。緩衝帯整備をすれば効果があるが、一過性にならないようにすることが大事。

### ◎ これからの森林づくり

・これからの森林をどう考えていくのか、国土保全や景観の問題など、そういった観点からの森づくりは、待ったなしである。

・この地域は森林税を使って整備し、里山の資源を循環させてみんなで盛り上げてやっていきますというような前提があれば、税金を投入する価値はあると思う。端から端までだらだら投入してもしょうがないという気がしている。

・森林税活用事業は、里山の間伐がメインになっているが、将来的には間伐から皆伐へ移行される可能性があり、更新が重要。ただし、個人個人が森林づくりをしていくことは難しくなってくるので、新たな森林づくりに向けた制度を作っていただくことも考えていただきたい。

・森林税の使い残りがあったという報道がされて、本当に残念に思っている。報道からは切捨間伐の予算が残ったと受け止めた。他に予算が欲しい事業はいくらでもある。予算をそこへ回して欲しいと思う。(搬出間伐等へのシフト) どこが事業の予算の必要性が高いのかという分析ができていなかったのではないかと思う。余ったなどということは、税を負担している者からすれば大変なことで、そこをきちんと説明して理解してもらわないといけないし、理解されて更に事業を続けたいといけないと思っている。

### ◎ 松くい虫対策

・税金を納めているのは関わっている人たちばかりではないので、そういう人たちが山を見たときに、松くい虫がどんどん広がっているが大丈夫かと感じると思う。今、こういう方針でゾーニングをして進めていること、お金が足りないことも宣伝して分かるようにしていただいた方が良く思う。

・こうして整備計画は少しずつ成果が出ているなと思う一方、松くい虫のように計画通りではなく、突発的に起きることも多くあるので、別に分けられないかと思った。

・長期計画で重点的にやっていく方向性が示されているものは、それはそれでももちろん続けていかななくてはならないが、松くい虫のように緊急性を要するものは別枠で予算を配分しないと対策できないかと思う(支援金)。

### ◎ その他

・子供への木育については、木を売れば良いという我々の時代の考えではなく、地球環境をどうしたらよいかなど、ソフト的な教育にも力を入れていただきたい。

・団体に森林税を申請して使わせていただいても1年限りで継続はないが、すごくおかしいのではないか。1年で何が出来るのかなと思う。軌道に乗り始めるのに、2、3年かかるので、せめて3年目の一番辛いところまで支援していただけると、森林税を活用していく場も広がって進んでいくのではと思う。

・森林整備の最前線にいる森林組合の作業班の収入が少ない。モチベーションを上げることを考えれば、森林税を使うのが妥当かどうか分からないが、1年間がんばって林業に従事したらボーナスを支給するようことなどができないか。現金でなくても山を提供する等でもよい。その山に自分で木を植えて林業の楽しみを感じてほしい。若い木の生長はすごいのでそれを見るだけでも木を植える楽しみがある。極端かもしれないが若い人を呼び込むように大胆な発想で森林税を使えないか。

・商工部関係で、農商工連携、六次産業化、儲かる仕組みを作っていくということだが、林業も付加価値を付け、儲かる仕組みをいれていかないと持続していかない。基本が確立しないと（人材も）定着しない。活用モデル事業→儲かる仕組みづくりを頭に置いた事業を作っていく必要がある。

・事業、事業がバラバラ実施されている。景観整備についてもバラバラに行われ、移動知事室の際にも木が育って暗くい感じになっているところに人が来るのかという指摘もあった。うまく調整していただければという思いがある。町村の行政マンが課題解決のためにしっかり食らいついてやってもらいたい。